

島根

日本地図を見た時に、どちらが島根県でどちらが鳥取県かと一瞬考えてしまう人はいないだろうか。「松江って、島根だけ？鳥取だけ？」こういう人だって実際少なからずいるはずである。念のため書いておくと、松江は島根である。事実、確か島根と鳥取は参議院選挙区が



合区とかっていうこともあった。とはいえども関東に住んでいる私にしてみたら、島根も鳥取も、地理的にも非常に興味深い。今回は山陰地方を下からどんどん登っていくといったルートである。

まず島根は浜田。浜田といえばノドグロ。ノドグロとネットで画像検索すると、なんと赤い魚ではないか。ノドグロという名前の由来は、その名の通り、口の中が黒いからである。私の大好きな最強の毒蛇、ブラックマンバも同じ理由でこういった名前がつけられている。実は、昨年のシルバーウィークに輪島に行った際、生まれてはじめてノドグロを食べたのだが、あまりの美味しさに感動した。浜田は、もうノドグロに関しては本場である。結論から言うと、微妙だった。とてもではないが輪島のノドグロとは比べものにならない。実際、行ったのは4月下旬から5月上旬の連休。産卵も終えて、とてもではないがシーズンではない。そもそもの話、実際浜田に行っても寿司屋がなかったのである。駅周辺を散策し



てみた結果、見つけたのは1軒だけだった。それもバカ高い値段である。寿司屋どころか、飲食店すらもほとんど見つけられなかった。近くに大学があるというのに、若い学生たちは毎日こんなところで何をしているのだろうか。頭おかしくなるのか。どう考えても良くない。



話は変わるが、浜田のホテルで宿泊した際、とある演歌歌手のディナーショーが開催されていた。確か名前が山崎とかがって言っていたので、調べていたところ、浜田出身の演歌歌手に「山崎ていじ」という人が出てきたので、おそらくこの人だったのではないかと思う。元々はプロボクサーで、アマチュアの

カラオケ大会をきっかけに歌手デビューしたという興味深い経歴の持ち主である。確か、輪島に行った時、ご当地ソングの女王として知られる水森かおりの「輪島朝市」という歌のモニュメントがあったのを覚えている。あいにく、この歌も知らないが、考えてみれば、例えば欧陽菲菲の「雨の御堂筋」とか森進一の「襟裳岬」みたいに何か爆発的ヒットなご当地ソングがあれば地方だってガラッと変わるのではないだろうか。山崎ていじには頑張ってもらいたい。



戦後最大の木造神社建築の拝殿



それから松江。外せないのが出雲大社。なんというか、そんじょそこらの神社なんぞとは比べ物にならないほど厳かである。格式の高さでいえば、三重県の伊勢神宮がもう頂点だとしたら、だいたいその次ぐらいではなかろうか。案の定、境内はたくさんの人でごっ

た返していた。私も実際知らなかったが、出雲大社は縁結びで有名みたいである。私にしてみれば全く興味のない話ではあるが、そういうのもあって人が多いのかもしれない。

境内の中を進んでいき、まず人がたくさん集まっていたのは、おおくにぬしのおおかみ大国主大神の像である。この神というのがたくさんの女神と結婚し、もうたくさんの子供を儲



出雲大社 八足門
一般の参拝はここまで

けたと言われている。どうやらこれが理由で縁結びに良いと言われているようである。そ



出雲大社 浄の池

れ以外にも古事記の中に『因幡の白兔』という話があるが、この話の中で兔を救ったのもこの大国主大神であるとのことである。それゆえ、境内の中ではあちらこちらで兔の像を見ることが出来る。出雲大社は他の神社と比べると少し変わっていて、御本殿まで行って参拝することが出来ないのである。通常、

御仮殿と呼ばれるところで参拝を済ませる。皇室の者でも本殿内までは入れないといわれていて、近づけて八足門というところまでなので、中の様子なんて全然見ることが出来ない。それでもやはり、たくさんの人がカメラを携えて、うろうろしていた。東京に戻ってきてから、色々調べては見てみたものの、正直よくわからない。私個人の感想としては、伊勢神宮ほどの存在感というか貫禄はないのである。以



「因幡の白兔」に因み
境内のあちらこちらにウサギの像がある



前、書き上げたレポートにも書いていたと思うが、私の母は三重出身なので伊勢神宮にはしばしば行っていた。もう長らく行ってないので、感覚が薄れているが、やはり神秘的というか、今でいう所謂パワースポット的な感じがしていたと思う。すぐにでも伊勢神宮に行きたくなった。

松江市と出雲市にまたがる宍道湖^{しんじこ}という湖がある。この湖は日本国内でも7番目の大きさを誇る湖であり、シジミ漁が盛んであるという事で有名である。すごく綺麗かといわれたら困るが、訪れたのが黄昏時だったこともあり、静かで、天候もちょうどよく、なかなか心地良いひと時であった。夕日が沈んでいく湖の風景に関しては息をのむ程の美しさであった。日本夕日百選にも選定されているだけあって、確かになかなかの光景だと思う。その夕日色に染まる宍道湖を遊覧船で渡ることも出来るというのだから、これは1度遊覧船に乗っておきたかった。

そして何を隠そう、松江城。正直、私自身、そんなにお城が好きというわけではないが、やはり松江城って有名だし、近くまで来たからには見学してみなければならない。考えてみれば、これまで福島の鶴ヶ城、静岡の駿府城、青森の弘前城など、日本各地のお城を結構見てきた。松江城に関しては、弘前城と同じく、現在国内に12しかないという天守閣を持つお城である。明治時代に廃城令が出されたことにより、天守以外全部、民間に払い下げられて現在のよう形となっている。この時、全国の城はほとんど取り壊されたが、地元の豪農 勝部本右衛門、旧松江藩士 高城権八達の努力で残



され、現在は山陰地方で唯一現存されているお城である。まあ、パッと見た印象としては非常に小さいといった感じである。入館料で 500 円ぐらい取られるが、人はたくさん入っていた。狭くて急な階段を、手すりを伝いながら、ゆっくりゆっくり、みんなで登っていくといった感じである。特に何かがあるというわけではないが、ち



よっとした模型などが展示されている。敷地内には、そのほかにも松江護國神社という神社もあった。護國神社なのだから、おそらく英霊を祀っているとは思うのだが、なぜか大勝利と書かれた幟がたくさんた



っていた。なんだか意味深である。それ以外にも、城山稲荷神社という稲荷もあった。ここには何百匹もの狐が並べられており、正直薄気味悪い。どことなく負のオーラみたいなものが蔓延している気がしないでもない。調べてみると、あの小泉八雲がよく散歩がてらに足

を運んでいた場所だという。境内には、八雲が特に可愛がっていたという狐が 2 匹飾られてもいた。この 2 匹が他のものとどう違うのか正直、私にはさっぱりわからなかった。でも八雲には何かしらの訳があったのだろう。なかなか気持ち悪い。正直な話、小泉八雲といわれてもしっかりこなかったので調べてみるとなかなかのオカルトめいた人物の様である。代表的な作品集の名前が『骨



董』や『怪談』。しかも、松江城のホームページには、八雲のゴーストツアーなんていう広告まである。この手のものが好きな人にとってはたまらないであろう。今度は先に、八雲の作品を読み、彼についてある程度のことを調べてから、もう一度来てみようと思う。

(鳥取につづく)

ウェバー伊安